

念仏者がなぜ地球温暖化防止に取り組むのかーその意義

平成 21 年度滋賀組第 1 回総代研修から

平成 22(2010)年 1 月 10 日(日)

滋賀組相談員 堅田 玄宥

ご講演

少欲知足(欲望を抑え、足るを知ろう)、
有り難い、勿体ない、お蔭さま

一、基幹運動の取り組みとしての意義

今から 24 年前、1985 年に宗門で基幹運動が立ち上げられたのは、念仏者が自分自身で信心を頂戴して「ありがたい、ありがたい」と云っているだけでは足りず、世の中の現実の課題に積極的に関わって行くことが大切だという精神が元になっています。

爾来、門信徒会運動改め、「門信徒会運動研修協議会」と「同朋運動」が二本の柱となって基幹運動が立ち上げられ進められて参りました。

「門信徒会運動研修協議会」がお聴聞に立脚して他力の信心を頂戴すると共に、広く世の中にお念仏のみ教えを広げてゆく「全員聞法全員伝道」という使命を担って来たのに対して、同朋運動は、「信心の社会性」というキャッチコピーを掲げて念仏者が社会に関わる運動として提唱されたものであります。

ところが、同朋運動が当時の基幹運動推進本部の意図により部落解放人権差別撤廃運動に特化してきたことに伴い、必ずしも良い成果ばかりではなく、反省すべき課題も新たに生じてきたのであります。特に、滋賀教区はその傾向が著しかったのであります。(尚、概要は、りびんぐらいぶず平成 21 年 11 月第 1 号「開かれたお寺を目指して」でご紹介の通りでありウェブサイト正覚寺上で御覧戴けます。)

その反省の上で、基幹運動推進本部では、平成 15 年以降、基幹運動における念仏者の社会的活動は、必ずしも部落解放人権差別撤廃運動に特化するのではなく、本来、もっと広くあらゆる今日的・社会的な課題と取り組む姿勢に立ち返るべきであると運動方針が見直されてきたのであります。

このような経緯を背景として、他力の念仏者が 1997 年の京都議定書に端を発して極めて今日的課題である「地球温暖化防止活動」に取り組むことは、新たに踏み出した基幹運動の具体的取組として極めて大きな意義を有するものだといえることができます。

二、地球温暖化防止活動に念仏者が取り組む本質的意義

滋賀組での取り組み

地球温暖化防止活動に係る研修は、わが滋賀組では、第 期滋賀組連続研修会第 1 回研修テーマとして取り上げ、続いて、総代会においては、平成 21 年 9 月 25 日、平成 21 年度第 1 回研

修でテーマに掲げて研修して戴いたのであります。

実は、地球温暖化は、人間の経済活動がその原因になっています。産業革命以降、経済活動の結果排出される二酸化炭素が1.36 倍の380ppmにまで増大しました。(温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)の解析による2006年の世界の平均濃度は前年比2.0ppm 増えて381.2ppm となっています。現在の濃度は産業革命以前の平均的な値とされる280ppm に比べ36%増加しています(Ref: <http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/ghghp/21co2.html>)。

二酸化炭素は太陽の赤外線を吸収して地球を毛布でくるんだような働きをします。これまでは地球の平均気温15℃を保ってきたのですが、これが増えすぎますとどんどん地球の温暖化が進みすぎて子や孫たちの時代が立ち行かなくなる恐れが明らかになってきました。

幸いに父祖の代から本願念仏のみ教えが伝えられお育てに与ってきた私達は、子や孫たちの時代にお念仏のみ教えを継承していく責務を担っています。その意味で地球温暖化防止活動に取り組むことは、子や孫たちの時代の生活が成り立つ条件づくりに寄与するのですから、お念仏のみ教えを子や孫たちの時代に伝えていく前提条件を確保することだと言えます。

更に、より本質的・精神的な理念に思いを致してみましよう。

人間の経済活動というのは、人間の欲望の所産であり、それ自体自らを抑制する機能を持っていません。ですので、経済活動を野放しにしている限り二酸化炭素の排出削減が難しくなる宿命を負っています。

そこで、もし、これを抑制するとするならば、もっと精神的な理念、例えば、「**少欲知足(欲望を抑え、足るを知ろう)**」という東洋の智慧の展開がなくてはならないと言われています。実は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)のパチャウリ議長はインドのヒンズー教徒でいらっしやいますが、今こそ東洋の智慧の「**少欲知足**」が全人類を救う時だとおっしゃっています。

地球温暖化

2007年ノーベル平和賞「国連IPCC & 不都合な真実」



◆温暖化との戦争は、今午後十一時

◆温暖化の危機を乗り越えるには

東洋の智慧が必要！

少欲知足(欲望を抑え、足るを知ろう)

温暖化の影響を受けるのは**子や孫の世代**

温暖化対策を採ることができるのは**私達**

子や孫の時代を慮って行動に移すべき！

(国連IPCC議長パチャウリ)。

<http://www.nhk.or.jp/eco2008/teigen/>

実は、「**少欲知足**」は、同じインドに発祥した仏教のみ教えでもあります。更に、私達念仏者は、愚かな凡夫が如来様のお慈悲によって救われていくというので、「**ありがたい、勿体ない、おかげさま**」という精神文化を育んできました。とりわけ「**勿体ない**」というのは、ものの命を最大限生かすというので資源を粗末にしないという立派な精神活動の理念であり、先に、ケニアのマータイ女史が国連で紹介され、全世界に広がりつつある薫り高い日本語であります。

そのような意味で、今や人類は、欲望を野放しにするのではなく、足るを知って生きる「**少欲知足**」こそが大切であり、とりわけ、如来様のお慈悲に生かされて生き、そのお慈悲を「**勿体ない**」と喜ぶ他力の念仏者が、これからの地球を救う地球温暖化防止運動に積極的に関わって行くことは本質的に重要な意義があるのだと申す事ができるかと窺うところであります。

ご門主も新著「愚の力」の中で、次のようにご指摘でありました。四聖諦で表しますと、

現在は不安の時代のさ中にあり、

その原因はこれまでの人間中心のあり方に起因するものであることにめざめ、

私たちがめざすべきは、安穩の国、浄土であり、

往生浄土のためには、親鸞聖人のみ教えに導かれ、阿弥陀如来の智慧の光に照らされ、お恥ずかしい私でありましたとの慚愧の思いに立ち返ることが大切であると。

折しも、プレジデnte・ブルデnte本願寺では、親鸞聖人七百五十回忌をお迎えするに当たって、安穩社会の実現を図るには、具体的に、「**ありがとう、勿体ない、お蔭さま(AMO運動)**」を展開すべきではないかと発案し、提起しているところであります。

ありがとう、勿体ない、お蔭さま

- 1973年親鸞聖人ご生誕800年記念法要の前門様の標語
「おかげさまとありがとう」・楽観の時代



- 1980年現門主「教書」発布→時代の転換期を見越して謳われた
「罪惡生死の凡夫にめざめた喜びと慚愧の生活」が大切

70年「**資源の枯渇問題**」

90年「**地球温暖化問題**」

2007年~9年「**金融危機**」

不安の時代

∴人間中心に起因

罪惡生死の凡夫の自覚に目覚めよう！

- 慚愧・歓喜の「**勿体ない**」精神の復活 (Ref:大谷光真『愚の力』)



- **ありがとう、勿体ない、お蔭さま(AMO)活動の提唱**
(Ref:南米開教区 プレジデnte・ブルデnte本願寺からの提起)

野洲祖様第九期第十一回連続研修会話しご法座へ出講の話題から

連研担当副組長は、去る11月19日午後七時半から午後十時まで、野洲組様の連続研修会へ「地球温暖化を考えるー今私たちにできること」について出講して参りました。場所は赤野井別院、夜の研修だというのに、皆様大変熱心にご受講戴戴きました。こうして他組様の連研にご縁を戴きますとその運営状況をつぶさに拝見できることが大きな収穫です。

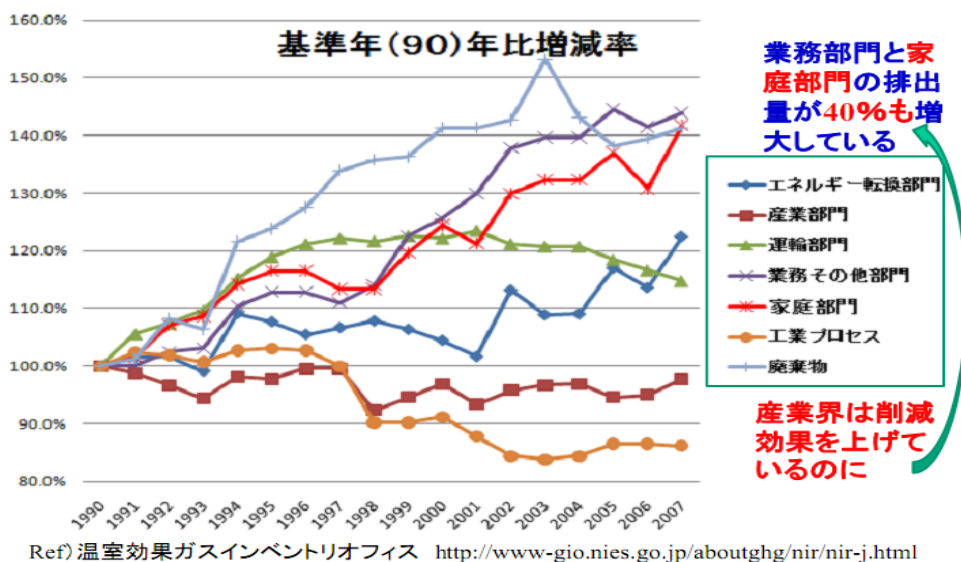
野洲組様の連研開催は、一つは週日の夜半だということでもあります。この方がご受講生の皆様にお集まり戴きやすいのだそうです。研修は二部構成になっており、第一部は、組内のお寺様による易しい「七高僧のお話」でございました。普段知っているようで知らない浄土真宗の七高僧様のお話を親しみやすくお話戴きました。

次に、私共の「地球温暖化防止への取り組み」についてのご支援は第二部に位置付けられており約二時間のお時間を頂戴しました。私共と申しましたのは、連研担当は滋賀県地球温暖化防止推進員を兼ねており、他にお二人のお仲間を動員してのご支援だったからです。実は去る9月25日の滋賀組総代研修にも同じメンバーでお世話させて戴いたのであります。

お二人は元企業マンで技術屋さんとして活躍された方であります。お二人は「得難いご縁でお寺にお参りさせて戴いて有り難いことである」という旨の感想をお述べになります。

正に「開かれたお寺」をめざす門信徒会運動の面目躍如の一面であります。

グラフは、地球温暖化の原因になっている温室効果ガス(GHG)である二酸化炭素の排出量が国内のどの部門からでているかの実態を京都議定書での基準年である1990年比の増減割合で示したものです。



一目瞭然、実は、産業界は、頑張っけて削減してきているのに、業務部門と家庭部門、更には廃棄物(これは最後に焼却するので二酸化炭素が発生します)の増え方が尋常ではないのです。業務部門というのは会社の事務部門であり、家庭部門というのは私達の日常生活そのものを指しています。

研修では、生活スタイルの実情を診断し、診断結果をグラフ化し、最後に生活スタイル改善の仕方をご案内します。それによって、二酸化炭素の排出量を削減して京都議定書の国家目標達成に貢献できるのみならず、経済面での出費をどの位抑えることができるかまでご案内しています。

地球温暖化防止に向けての地道な活動は、子や孫の時代に私たちのお念仏のみ教えが継承されるその土台作りとして重要です。

既に、教区内では、平成20年5月に滋賀教区の基幹運動の研修会でご説明させて頂きました。他、野洲組様では平成20年2月の基幹運動の研修でも出講させて頂いております。

滋賀組での実績については、先に記した通りでございます。

今後は各寺院単位での御取組みが勧められますので、研修をご要望の際は、是非連研担当までご一報戴きますようお願い方々ご案内申し上げます。合掌

21年12月 COP15から

ツバル等の島嶼国家からは、同じ発展途上国とは言え、中国が自らの削減を絶対量ベースで宣言せず、いつまでも先進国との交渉の取引に関わっている姿に業を煮やして、別行動をとる動きが表面化しました。即ち「中国は、絶対量ベースでの二酸化炭素の削減目標を掲げるべきである」と

実は前日、その中国が日本の鳩山イニシアティブに謳われた1990年比25%の削減目標が実現不可能な数字だと揶揄したばかりだったのです。

また、EUからは、2020年目標として1990比で30%削減を謳いあげるに吝かではないとアナウンスされました。今こそ日本は、EUとも共同歩調をとりつつ、新たな姿勢をとりだしたツバル等の島嶼国家と連携を組むべき時であります。

合掌

著作編集兼発行元 りびんぐらいぶず編集室(浄土真宗本願寺派 正覚寺内)

〒520-0501 大津市北小松四五二番地 ☎&Fax077-596-0166 住職 堅田 玄宥

URL: <http://syohgakuji.web.fc2.com/>

E-Mail: mhkatata@pluto.dti.ne.jp